

高齢者の笑顔つなごうプロジェクト

笑顔あふれる地域の実現を目指して①

◎問い合わせ

高齢障がい課

地域支援係

☎37-0111

厚生労働省発表の平成29年「簡易生命表」によると、日本の平均寿命は、男性 81.09歳、女性 87.26歳といずれも過去最高を記録しました。これと相まって、高齢者数は年々増加し、神崎市でも平成30年7月末現在、高齢化率は30.1%と過去最高を記録しており、約3人に一人は高齢者となっています。こうした現状を踏まえ、市では、高齢者の生きがい創出を図り、自身の能力を活かし、地域社会に積極的に参加することで、より自分らしく充実したシニアライフを送ること、さらに、そうすることで笑顔あふれる地域の実現を目指し「高齢者の笑顔つなごうプロジェクト」に取り組みます。

2回に渡りこのテーマで高齢者に関する取組について、ご紹介します。



▲青山女性百人会
代表 本田 房代さん

大分県佐伯市青山地区の取り組み

市民支え合いの
地域づくりを考える
講演会を開催

このプロジェクトの第1弾として、市報かんざき8月号でお知らせしたとおり「市民支え合いの地域づくり講演会」を開催します。

高齢化が進み、地域に住む高齢者同士の絆が薄れ、全体の活力が失われることを危惧した大分県佐伯市青山地区で、地域おこしのために地元の女性が立ちあがり「青山女性百人会」が誕生。ピンピン元気でコロコロ笑って過ごそう」という思いから名付けられた「青山ピンコロ軒」は、地域の高齢者のコミュニケーションの場として賑わっています。

この取組を行っている「青山女性百人会・青山を実り豊かにする会」から講師をお招きし、「ピンピンコロコロ元気に村づくり」と題した講演会を開催します。

この先進的な地域づくりの講演を受け、第2弾として「青山ピンコロ軒」を体験する視察研修を予定しており、詳細は市報かんざき10月号でお知らせします。

いつまでもいきいき 元気に過ごすために

「年齢を重ねても、いつまでも元気で住み慣れた地域で生活したい」誰もが望むことではないでしょうか。

その実現のために、平成28年度から地域ごとに介護予防教室を実施しています。地域の実情に応じて、老人クラブや婦人会など活動主体は異なりますが、地区公民館で介護予防のための運動やレクリエーションなどを行っています。



丁太田地区 笑おう会

また、地域の公民館などに集うことで、地域での支え合いの体制を構築することも目的としています。

7月末現在、10地区（仲田町団地、下直鳥、丁太田、柴尾、新宿、石井ヶ里、四丁目、本堀、



仲田町団地地区 体操の様子

《いきいき100歳体操》
いきいき100歳体操とは、年齢・性別に関係なく誰でも参加可能な筋力づくり運動です。自身の体力にあった0.5kg（10段階）の重りを手首や足首に付けて、主に椅子に座って行う約30分の体操です。

尾崎西分、上直鳥）で介護予防教室が実施されています。最初は、市から職員が出向き教室の進め方や体操を指導します。1～2カ月程度は職員が指導を行います。その後には参加者の皆さんで教室を運営していただいています。

次に、市が地域に進めている介護予防の体操（いきいき100歳体操）をご紹介します。



石井ヶ里地区 体操の様子



体操を継続することで年齢に関係なく筋力がつき、バランスをとる力が高まり、転倒しにくくなる等効果が出ます。



対象年齢	支給額	対象者数
80歳 昭和13年4月2日 ～昭和14年4月1日生	5,000円	275人
100歳以上 大正8年4月1日以前生	30,000円	37人

平成30年8月1日現在

長生きを応援します 《長寿祝い金》

高齢者の長生きを祝福して、長寿祝い金を支給します。80歳の方には、地区の区長を通してお渡しします。100歳以上の方は、市長が訪問し、直接手渡します。

○対象者

9月1日現在で、住民となった日から1年以上居住し、年齢が平成31年4月1日時点で80歳、100歳以上の方

《はり・きゆう等施術券》

はり、きゆう、あんま、マッサージ、指圧などの施術費用の一部を助成しています。健康の保持、増進に役立ててください。

○対象者

市内にお住まいの70歳以上の方

○助成額

1枚1,000円の施術券を年間18枚交付します。
※年間分を2回に分けて発行しています。

詳しくは、高齢障がい課にお問い合わせください。



▶松本市長が佐賀県男性最高齢の志岐鐵雄さん（撮影当時107歳、鶴西地区）を訪問（昨年9月）

《市長の部屋》

「神埼市の偉人に思うこと」

大倉邦彦と下村湖人との関わりに期待が!!

市報では今年4月から「神埼市が生んだ偉人たち」を紹介しており、先月の8月号には『大倉邦彦』の紹介記事が掲載されました。すでに読まれた方は、大倉邦彦の経歴、人物像などご承知のことと思います。

大倉邦彦は、昭和7年に神奈川県横浜市大倉山に大倉精神文化研究所を設立しています。この研究所の設立目的は、「東西両洋の精神文化及び地域における歴史・文化に関する科学的研究及び普及活動を行い、国民の知性及び道義の高揚を図ること

により、心豊かな国民生活の実現に資し、もって日本文化の振興及び世界の文化の進展に寄与する一ものとしてあります。現に、精神文化に関する図書が多



く収集され、これまで宗教、哲学、倫理および教育などにかかわる多くの研究者が集い、学術研究が行われてきました。しかも、当研究所には附属図書館が設置され、一般に無料公開されており、多くの方々に親しみ、利用いただいていることです。話題は変わりますが、7月26日に、公益財団法人大倉精神文化研究所理事長 高井祿郎氏が来神（神埼市にお出でになる）され、「神埼市立図書館」と「大倉精神文化研究所附属図書館」との間で姉妹図書館提携の調印式を行いました。

このことは、当研究所から、神埼市が大倉邦彦の生誕地であるため、いろいろな意味合いをもって交流ができればとの依頼が従前からあつておりました。その折、特に大倉邦彦は生誕地神埼の風

土と教育によつて、社会貢献をライフワークとするようになったのだと聞きました。また、郷里を離れた後も、終生神埼の地を大切に密接な関係を保ち続けたことを教示され、これは調印すべきとの判断に至つたものです。

なお、当研究所は平成34年に創立90周年を迎えることから、その記念事業の一つにすべく、神埼市立図書館と当附属図書館との間で姉妹提携を強く求められたものです。今回の姉妹図書館提携によつて、神埼市は大倉精神文化研究所と連携し、大倉邦彦の思想や業績の調査、研究をより深めることができ、その成果を市内はもとより、横浜、全国に広く紹介、PRすること、文化の振興に寄与できるものと考えています。

調印の折、高井理事長から「大倉邦彦は、佐賀中学時代の同期に有名な経済学者 高田保馬（小城市出身）と1学年下下村湖人（小城市出身）と聞き、私は、驚きと同時に、神埼町と千代田町との間で、今後、新しく何かを創造できるきっかけをつかめるのではとの思いが沸き上がるのを強く感じました。また、8月16日、大倉精神文

化研究所主催の「座談会」に市長参加の要請を受けたことから、横浜市大倉山記念館にて出席してまいります。この座談会は、大倉邦彦生誕地神埼市の現市長（松本茂幸）と大倉邦彦が学長を務めた東洋大学の現学長（竹村牧男）および大倉邦彦が創立した公益財団法人大倉精神文化研究所の現理事長（高井祿郎）の三者が、大倉邦彦の思想や業績に思いをはせながら、それぞれの立場から人格教育や文化の振興、精神文化の今日的課題とその解決へ向けた三者の取り組み等について語り合い、相互の交流を深めることを目的に進められることとなっております。

これはちょうど、折よく座談会が開かれるので、私は、大倉邦彦と下村湖人との接点があるのか、あればどんな関わり合いなのかを尋ね、新しい情報を拝聴できればと気持ちが高ぶっています。今後の展開が楽しみです。皆さまに後日報告をしたいと思

神埼市長

松本 茂幸

夜の市長室

※当日は来庁順で受け付けを行います（1組30分程度）。
※お住まいの地区に関係なくお越しいただけます。
※悪天などの場合は、開催の有無をお問い合わせください。

どんなことでも構いません。皆さまの声をお聞かせください!

○今後の予定

とき	ところ
9月4日(火)	千代田支所
10月2日(火)	脊振支所

◎問い合わせ 総務課 秘書広報係 ☎37-0088



8月の神埼市役所開催分には、6組16人が来庁されました。